

事業報告

平成二十三年度日本大学学部連携研究推進 シンポジウム

「二十一世紀における新たなエネルギーシ ステムの構築に向けた総合的研究」

日時 平成二十四年二月二十四日(金)・二十五日(土)

場所 法学部十号館一〇一一講堂

主催 再生可能エネルギーシンポジウム実行委員会

後援 新エネルギー財団、日本大学法学部法学研究所

【二月二十四日(金)午前九時四十五分】

セッション一

「原発事故の教訓とエネルギー転換への制度改革・熱源選択
のあり方」

オーガナイザー…円居 総一(日本大学国際関係学部)

原発事故とその対策

池村 正道(日本大学法学部)

原発事故の民事法的検討〜東電の再生に向けて〜

松嶋 隆弘(日本大学法学部)

原子力と電力供給体制改革への課題と展望

原 英史(株式会社政策工房)

エネルギー転換に向けた熱源選択への現実解

円居 総一(日本大学国際関係学部)

セッション二

「バイオマスエネルギー創出技術の現状と課題」

オーガナイザー…小林 紀之(日本大学法科大学院)

わが国の木質バイオマス利用の現状と日本大学の取り組み

井上 公基(日本大学生物資源科学部)

梶原町の再生可能エネルギー活用の取り組み

矢野 富夫(高知県梶原町)

川崎バイオマス発電株式会社の現状

小山 聡(住友林業株式会社)

海藻バイオマスを利用した水素生産のフーズビリティ

谷生 重晴(バイオ水素株式会社)

セッション三

「自然エネルギー創出技術の現状と課題」

オーガナイザー…増田 光一(日本大学理工学部)

太陽光発電技術の現状と課題

西川 省吾(日本大学理工学部)

風力発電の現状と課題

長井 浩(日本大学生産工学部)

わが国の地熱エネルギー開発利用の現状と課題

江原 幸雄(九州大学工学研究院)

小水力発電の現状と課題

小林 久(茨城大学農学部)

潮流発電の現状と課題

塩野 光弘(日本大学理工学部)

世界と日本の波力発電研究と今後

居駒 知樹(日本大学理工学部)

水素エネルギー利用技術

西宮 伸幸(日本大学理工学部)

【二月二十五日(土)午前十時】

セッション四

「再生可能エネルギーの産業化に伴う新ビジネスの展開と課題」

オーガナイザー…村井 秀樹(日本大学商学部)

再生エネルギーの導入と環境経済・経営・会社問題

村井 秀樹(日本大学商学部)

グリーン・イノベーションのシナジー効果

石橋 春男(日本大学商学部)

再生可能エネルギーにおける農山村の役割

高橋 巖(日本大学生物資源科学部)

国内版クレジット制度における再生可能エネルギープロ

ジェクトの事例と課題

向井 征二(株式会社日本環境取引機構)

環境経営における再生可能エネルギー利用の実践と課題

川村 雅彦(株式会社ニッセイ基礎研究所)

パネルディスカッション

「再生可能エネルギーによる原子力発電代替に向けた展望とプラン」

オーガナイザー…廣海 十朗(日本大学生物資源科学部)

田居 総一(日本大学国際関係学部)

水谷 広(日本大学生物資源科学部)

大久保拓也(日本大学法学部)

村井 秀樹(日本大学商学部)

西宮 伸幸(日本大学理工学部)

長井 浩(日本大学生産工学部)

総括 研究者代表者…大賀 圭治(日本大学生物資源科学部)

政経研究所共同研究シンポジウム 「今、政治家を問う」

日時 平成二十四年十二月二十二日(土)午後一時十五分
場所 法学部十号館一〇一一講堂
主催 日本大学法学部政経研究所

一、基調講演

河野 洋平(元衆議院議長)

二、パネルディスカッション

大島九州男(参議院議員…日本大学法学部卒業)

小野 晋也(元衆議院議員…樫樹舎舎主)

白 眞勲(参議院議員…日本大学生産工学部卒業)

福島みずほ(社民党党首)

福田 充(日本大学法学部教授)

吉野 篤(日本大学法学部教授)

司会 秋山 和宏(日本大学法学部政経研究所長)

平成二十三年度・二十四年度研究会報告

法学研究所

刑事法研究会

(第八回例会)

一、平成二十四年二月二十二日(水)午後五時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

検察官の適正な公訴権行使と司法取引

大学院法務研究科教授 加藤 康榮

(第九回例会)

一、平成二十四年三月十五日(木)午後五時から

一、法学部(本館)担当室

一、テーマ及び報告者

脱線転覆事故と安全対策責任者の過失

— 尼崎JR脱線事件 —

教授 船山 泰範

(第一回例会)

一、平成二十四年五月二十一日(月)午後六時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

共犯者が住居に侵入した後、強盗に着手する前に現場から離脱した場合において共謀関係の解消が否定された事例
(最決平二十一・六・三十、刑集六三・五・四七五)

名誉教授 板倉 宏

(第二回例会)

一、平成二十四年六月二十八日(木)午後四時から

一、法学部(本館)一七一講堂

一、テーマ及び報告者

コンピュータ・ネットワーク犯罪に関する刑事立法の検討

教授 南部 篤

(第三回例会)

一、平成二十四年七月十九日(木)午後五時から

一、法学部(本館)一六一講堂

一、テーマ及び報告者

憲法上保障される証拠開示の限界とその実現

—アメリカ合衆国の Brady 法理を巡る議論を中心に—

助教 三明 翔

(第四回例会)

一、平成二十四年九月二十七日(木)午後五時から

一、法学部(本館)第一会議室

一、テーマ及び報告者

① 世田谷区清掃・リサイクル条例に関する違憲主張が欠前提処理された事例(平成二十(あ)一三九世田谷区清掃・リサイクル条例違反被告事件、平成二十年七月十七日最高裁判所第一小法廷決定、刑集第二九四号八六九頁)

大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学 山本 善貴

② 適法用途にも著作権侵害用途にも利用できるファイル共有ソフト Winny をインターネットを通じて不特定多数の者に公開、提供し、正犯者がこれを利用して著作物の公衆送信権を侵害することを幫助したとして、著作権法違反幫助に問われた事案につき、幫助犯の故意が欠けるとされた事例(平成二十一(あ)一九〇〇著作権法違反幫助被告事件、平成二十三年十二月十九日最高裁判所第三小法廷決定、刑集六五卷九号一三八〇頁)

大学院法学研究科博士後期課程 高瀬 俊明

(第五回例会)

一、平成二十四年十月十八日(木)午後五時から

一、法学部(本館)一八一講堂

一、テーマ及び報告者

① 「被害者の死亡の原因となった行為が強盗の機会に行われたものとされた事例」(東京高裁平成二十三年一月

二十五日平成二十二(う)第一七五六号・高刑集六四卷一
号一頁)

大学院法学研究科博士後期課程 浜崎 昌之

②「他の者を搭乗させる意図を秘し、航空会社の搭乗業務
をする係員に外国行きの自己に対する搭乗券の交付を請
求してその交付を受けた行為が、詐欺罪に当たるとされ
た事例」(最高裁平成二十二年七月二十九日決定平成二十
年(あ)第七二〇号・刑集六四卷五号八二九頁)

大学院法学研究科博士後期課程 淵脇千寿保

(第六回例会)

一、平成二十四年十一月二十九日(木)午後五時から

一、法学部(本館)一七一講堂

一、テーマ及び報告者

飲酒関与・同乗者に危険運転致死傷幫助罪が認められた事
例(さいたま地裁刑事部平成二十三年二月十四日判決(平成
二十二(わ)一四六五))

非常勤講師 上野 幸彦

(第七回例会)

一、平成二十四年十二月二十日(木)午後五時から

一、法学部(本館)一七一講堂

一、テーマ及び報告者

長野地裁判決平成二十四年十月十九日(公刊物未搭載)につ
いて

教授 船山 泰範

(第八回例会)

一、平成二十五年一月二十四日(木)午後五時から

一、法学部(本館)一七一講堂

一、テーマ及び報告者

適正手続と検察官の役割

大学院法務研究科教授 加藤 康榮

民法法研究会

(第一回例会)

一、平成二十四年九月二十九日(土)午後二時から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

① サービス付き高齢者向け住宅における居住の保障と法的
課題
——高齢者専用賃貸住宅の契約書等に関する実態調査結
果をてがかりとして——

准教授 矢田 尚子

② 物件の喪失と対抗問題

准教授 堀切 忠和

一、テーマ及び報告者

民事法・商事法合同研究会

(第一回例会)

一、平成二十四年五月十二日(土)午後二時から

一、法学部(二一号館)二階会議室

一、テーマ及び報告者

①個人事業と法人格

―フランスEIRL(有限責任個人事業者)制度の創設を機縁として―

教授 清水 恵介

②(判例研究)

代位弁済による財団債権・共益債権承継の可否(最判平成二十三年十一月二十二日判時二二三四号六二頁、最判平成二十三年十一月二十四日判時二二三四号六七頁)

准教授 杉本 純子

(第一回例会)

一、平成二十四年七月七日(土)午後二時から

一、法学部(本館)第一会議室

一、テーマ及び報告者

①(判例研究)

代表取締役以外の者が議長を務めたこと等を理由として代表取締役解任決議について不存在確認請求が認められた事例(東京地判平成二十三年一月二十六日・判タ二三六一号二一八頁)

准教授 大久保拓也

商事法研究会

(第四回例会)

一、平成二十四年二月四日(土)午後二時から

一、法学部(二号館)三二六講堂

②(判例研究)

シンジケート・ローンにおけるアレレンジャーがその招聘に応じてシンジケート・ローンを組成した貸付人に対して不法行為責任を負うとされた事例(名古屋高判平成二十三年四月十四日・金判一三六七号二三頁)

商学部助教 鬼頭 俊泰

(第二回例会)

一、平成二十四年九月十五日(土)午後二時から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

①(判例研究)

旧証券取引法一六七条二項にいう「決定」には、「業務執行を決定する機関」で、公開買付け等の実現を意図し、それに向けた作業を会社の業務として行う決定があれば足り、その具体的な実現可能性までは要しないとした事例(最判平成二十三年六月六日・刑集六五巻四号三八五頁、資料版商事三二九号一六四頁)

朝日大学法学部准教授 中村 良

②(判例研究)

銀行取締役の融資責任にかかる考察―東和銀行損害賠償請求等訴訟控訴審判決―(東京高判平成二十三年十二月

十五日・資料版三三四号八三頁)

教授 藤川 信夫

(第三回例会)

一、平成二十四年十一月三十日(金)午後五時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

原子力事業者のリスクチャリング・スキーム(実質国有化)についての一考察

―公法学の観点から―

大学院法務研究科助教 平 裕介

(第四回例会)

一、平成二十四年十二月二十二日(土)午後二時から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

①(判例研究)

会社経営陣による自社買収(MBO)に関する内部文書の提出を命じた事件(神戸地決平成二十四年五月八日金判一三九五号四〇頁)

大学院法務研究科助教 佐々木良行

②イギリス会社法における定款の自治

―イギリス私会社における判例法理の分析とわが国に

おける課題―

准教授 大久保 拓也

経営法学研究会

(第九回例会)

一、平成二十四年二月二十五日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)三二四講堂

一、テーマ及び報告者

基本的人権に基づく税法及び税務会計の基本的な問題点と、それに関係する重加算税に関する逋脱犯と損益通算に関する遡及立法の一考察

九州共立大学総合研究所客員研究員 弓削 忠史

(第一回例会)

一、平成二十四年四月二十一日(土)午後四時三十分から

一、法学部(二号館)三二九講堂

一、テーマ及び報告者

不公平な税制をただす会の財源試算

不公平な税制をただす会運営委員・税理士 荒川 俊之

(第二回例会)

一、平成二十四年五月十九日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)三二五講堂

一、テーマ及び報告者

世界の諸国における租税回避のとりえ方

―比較租税法(comparative tax law)の観点で―

大学院法務研究科教授 今村 隆

(第三回例会)

一、平成二十四年六月十六日(土)午後四時三十分から

一、法学部(三号館)三二八講堂

一、テーマ及び報告者

①居住福祉と関連税制

法政大学大学院講師・一級建築士 倉田 剛

②差押え禁止財産と普通預金の差押え

立正大学法学部客員教授・税理士 浦野 広明

(第四回例会)

一、平成二十四年七月十八日(水)午後六時から

一、法学部(一〇号館)一〇四一講堂

一、テーマ及び報告者

①北米市場における日本産マンガのマーケティング

一橋大学大学院商学研究科准教授 松井 剛

②クール・ジャパン政策の現状とコンテンツの海外展開を

中心に

経済産業省クリエイティブ産業課課長補佐 三原龍太郎

(第五回例会)

- 一、平成二十四年七月二十一日(土)午後三時から
- 一、法学部(三号館)三二八講堂
- 一、テーマ及び報告者

① マイナンバーその問題点

関東学院大学法学部教授・税理士 阿部 徳幸

- ② 大日本帝国憲法と日本国憲法の比較による税務調査の分析

税理士 福重 利夫

(第六回例会)

- 一、平成二十四年十二月十五日(土)午後三時から
- 一、法学部(三号館)三二八講堂
- 一、テーマ及び報告者

① 農地等に係る納税猶予の否認を撤回させた事例

立正大学法学部客員教授・税理士 浦野 広明

② 消費税を法人事業税・付加価値割と合体する提言

元静岡大学教授・税理士 湖東 京至

(第七回例会)

- 一、平成二十五年一月十九日(土)午後三時から
- 一、法学部(三号館)三二八講堂
- 一、テーマ及び報告者

① 国税徴収法運用の現状と法的問題

税理士 大野 寛

- ② 税理士事務所内で不正が行われた場合に税理士は専門家の責任を負うか

青山学院大学客員教授・税理士 平 仁

保険法研究会

(第一回例会)

- 一、平成二十四年十二月八日(土)午後二時から
- 一、法学部(一〇号館)一〇四一講堂
- 一、テーマ及び報告者

① (判例研究)

複数の法人を実質的に支配する貸主が複数の法人を巧みに利用して金銭貸付けを行い利息制限法違反の利息を取得した場合において、法人格を否認され、借主からの過払金返還請求が認められた事例(東京高判平成二十四年六月四日・金判一四〇一号一四号)

商学部助教 鬼頭 俊泰

② (判例研究)

損害の元本に対する遅延損害金を支払う旨の定めがない自動車保険契約の無保険車傷害条項に基づき支払われる

べき保険金の算定方法／自動車保険契約の無保険車傷害
条項に基づく保険金の支払債務に係る遅延損害金の利率
(最判平成二十四年四月二十七日・金判一三九六号一六
頁)

教授 松嶋 隆弘

政経研究所

文理学部助教 日吉 秀吉

(第二回例会)

一、平成二十四年十二月十三日(木)午後四時から

一、法学部(本館)一六一講堂

一、テーマ及び報告者

儒教文明圏の国際関係(冊封制度を中心に)

釜山外国語大学校教授 権 善弘

政治研究会

(第一回例会)

一、平成二十四年七月十三日(金)午後三時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

近代日本の政軍関係に関する研究

—新制度論の視点から—

明治大学政治経済学部兼任講師 小森 雄太

(第二回例会)

一、平成二十四年七月二十六日(木)午後四時三十分から

一、法学部(本館)一七一講堂

一、テーマ及び報告者

薄熙来失脚と中国政治の行方

経済研究会

(第一回例会)

一、平成二十四年五月三十一日(木)午後五時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

ハイエクの貨幣観の基礎—抽象と全体論

非常勤講師 川村 哲章

(第二回例会)

一、平成二十四年七月二十四日(火)午後六時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

超高齢化社会と都市経済学

経済学部教授 中川 雅之

(第三回例会)

一、平成二十四年十月二十五日(木)午後五時三十分から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

JICA ボランティア事業における人権基盤型アプローチ
の適用の考察

政経研究所研究員 高島 淳

(第四回例会)

一、平成二十四年十二月六日(木)午後五時三十分から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

T・ヴェブレンの進化論的経済学における「製作本能とそ
の自己汚染」について

拓殖大学非常勤講師 高橋 宏幸

公共政策研究会

(第三回例会)

一、平成二十四年二月二十四日(金)午後四時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

行政相談委員制度五〇年の歩みと今後の展望

名誉教授 山岡 永知

(第一回例会)

一、平成二十四年六月三十日(土)午前九時から

一、法学部(一〇号館)一〇一一講堂

一、テーマ及び報告者

① 国及び都道府県における労働政策の決定について

厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課

均等業務指導室長 田平 浩二

② 厚生労働省における雇用均等政策の決定と実施について

厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課

法規課長 安保壮一郎

(第二回例会)

一、平成二十四年七月七日(土)午前九時から

一、法学部(一〇号館)一〇一一講堂

一、テーマ及び報告者

東京労働局における雇用均等政策の実施状況について

東京労働局雇用均等室・地方機会均等指導官 下平 佳子

比較法研究所

現代空法研究会

(第一回例会)

一、平成二十四年七月二十一日(土)午後二時から

一、法学部(一〇号館)一〇四一講堂

一、テーマ及び報告者

①航空行政法学は成立するか

——空法、航空法の定義を端緒として、我が国の航空法研究の方法論について、行政法学の立場から考察する——

高崎経済大学教授 新田 浩司

②国連における宇宙法形成の方向性

——宇宙空間平和利用委員会の作業を中心に——
慶應義塾大学SFC研究所上席所員(訪問) 大塚 敬子

(※平成二十四年二月～平成二十五年一月末日現在)

平成二十三年度学内学会・研究所合同研究会

一、日時 平成二十四年三月十六日(金)午前十時開会

一、場所 法学部本館二階第一会議室

司会・進行 堀切 忠和・臼井 哲也

大熊 圭子・喜多 義人

水本 孝二

一、自由論題

①日露開戦期における雑誌『東洋』と『日本週報』に関する考察
石川 徳幸

②日本のアカデミズムにおけるボードレール受容
畠山 達

③行政広報の現代的課題
岩井 義和

二、在外研究報告

①『書叙指南』の基本情報に関する諸問題とその検証
——中国・台湾における文献調査・研究の報告にかえて——
福本 滋久

②アジア太平洋におけるリージョナリズムを考える
佐渡友 哲

③憲法の経済効果に関する研究
坂井 吉良

三、退任記念講演

これからのキャリア教育の推進とその方策
野々村 新

平成二十三年・二十四年度定期無料法律 相談会

平成二十三年・二十四年度定期無料法律相談会は、校友弁護士の協力を得て開催された。概要は左記のとおりである。定期無料法律相談会の趣旨である地域社会との交流を図り、学生達の法学の実践教育を行うという目的を達成することができた。

一、日時

【平成二十三年度】

(第七回)平成二十四年二月四日(土)

(第八回)平成二十四年三月十日(土)

【平成二十四年度】

(第一回)平成二十四年五月二十六日(土)

(第二回)平成二十四年六月九日(土)

(第三回)平成二十四年七月十四日(土)

(第四回)平成二十四年十月二十日(土)

(第五回)平成二十四年十一月二十四日(土)

(第六回)平成二十四年十二月十五日(土)

※いずれも時間は、午後一時～午後三時

二、場所 法学部三号館

三、参加者(敬称略)

(専任教員)

岡島 芳伸・内山 忠明・清水 恵介・関 正晴
松嶋 隆弘・山川 一陽・堀切 忠和

(校友弁護士)

宮崎 章・木津川迪洽・高橋 幸二・高村 定憲
平田 和夫・木下 淳一・田中 貴一・松尾 浩順
中野 浩和

(補助学生)

参加教員担当ゼミナール学生 各回四名

四、相談件数・内容

① 件数

六十五件

② 内容

扶養、相続関係(遺言・遺産分割)	十件
貸金、そのほかの債権回収	六件
借地借家	五件
不法行為(名譽毀損・器物損壊など)	六件
近隣問題(道路・境界など)	六件
労働関係(従業員のトラブル・解雇など)	三件
家族関係(離婚・DVなど)	六件
借金、保証そのほかの金銭債務(含む破産)	二件
売買そのほかの契約関係	一件

その他(消費者問題など) 二十件

(※平成二十四年二月～平成二十五年一月末日現在)

平成二十四年度巡回無料法律相談会

平成二十四年度巡回無料法律相談会は、山梨県甲府市の岡島百貨店八階の岡島ローヤル会館において、市当局並びに地元校友会・校友弁護士等の協力を得て、平成二十四年十一月十八日(日)に開催された。

開催の概要は左記のとおりである。巡回無料法律相談会の趣旨である地域社会との交流を図り、学生達の法学の実践教育を行うという目的を達成することができた。

一、日時 平成二十四年十一月十八日(日)

午前十時三十分～午後三時

二、場所 山梨県甲府市

岡島百貨店八階 岡島ローヤル会館

三、参加者(敬称略)

(専任教職員)

岡島 芳伸・内山 忠明・清水 恵介・山川 一陽

堀切 忠和・外園 澄子・星野 孝一・関根 喬

戸塚 浩行

(校友弁護士)

高村 定憲・上野 真裕・小澤 進・大谷部雅典
宮下 将吾・小宮山 博

(補助学生)

参加教員担当ゼミナール学生等十八名

四、相談件数・内容

① 件数

二十八件

② 内容

借地借家

三件

建築関係

二件

売買その他のほかの契約関係

一件

家族関係(離婚・DVなど)

二件

扶養、相続関係(遺言・遺産分割)

八件

その他(貸金・近隣問題・交通事故など)

十二件

平成二十四年度行政なんでも相談

平成二十四年度行政なんでも相談は、法桜祭期間に合わせて開催された。概要は左記のとおりである。専門の相談員による行政相談に本学部の学生を陪席させ、行政相談を通じて日本の現代行政を理解する機会を提供し、そこにある問題点及びその

解決方法を実感させるために実施した。

一、日時 平成二十四年十一月二日(金)～十一月四日(日)

※いずれも時間は、午前十時～午後三時

二、場所 法学部十号館二階 学生ホール

三、主催 日本大学法学部政経研究所

四、後援 東京行政相談委員協議会

五、協力 総務省東京行政評価事務所

六、相談員

東京行政相談委員協議会行政相談委員

総務省東京行政評価事務所行政相談官

七、補助学生 行政科研究室所属学生及び公募にて募集の法学

部生

八、相談項目

・税金について

・防災政策について

・交通の便について

・年金制度について

・行政改革について

等々

九、相談件数

二十二件

平成二十四年度法律討論会

第三十五回法律討論会は、日本大学法学会と日本大学法曹会による共同開催、並びに日本大学法学部校友会と日本大学法学部法学研究所の後援により、平成二十四年十月十三日(土)十二時三十分から法学部十号館一階一〇一一講堂において開催された。

(出題者)

小西 威夫 検察官

(審査員)

神田 温子 裁判官・梶原明日香 検察官

榎本 一久 弁護士

(進行・時計)

大内 倫彦 弁護士・今井 勇太 弁護士

◆問題(刑法)

Aは、かねて知人のXから借金を重ねており、平成二十四年十月時点で合計三〇〇万円を借りていた(なお、借用書等の書面はない)。

Aは、Xに対する借金の返済費用や生活費欲しさに、民家に侵入して現金を盗もうと考えた。

Aは、平成二十四年十月十日午前一時頃、埼玉県内にある二階建て一軒家であるB方（なお、Bは一人暮らし）の玄関扉の鍵がかかっていなかったことから、同家屋に入り、現金を盗もうと考えた。

Aは、玄関扉を開けて屋内の様子をうかがうと、灯りがついておらず、物音一つしなかったことから、居住者が寝ていると思い、その隙に居住者の財布を盗もうと考え、B方内に入った。

Aが思ったとおり、二階寝室のベッドでBが寝ていたので、Aは屋内を物色し、ベッド脇に財布が入ったカバンを見つけたことから、カバンごと財布を盗もうと考え、カバンを持って一階に降り、カバンを玄関の土間に置いた。なお、二階寝室内から玄関の様子を見ることはできない。

Aは、玄関でカバン内から財布を取り出して中身を確認したところ、現金が全く入っておらず、キャッシュカード一枚しか入っていないことに気付いた。

Aは、B方の台所の包丁でBを脅して暗証番号を聞き出し、後にキャッシュカードで現金を引き出そうと考え、財布を玄関の土間に置いたカバン内に戻した上、台所から大型の出刃包丁を持ち出し、二階寝室のベッドで寝ていたBの傍まで移動した。そして、Aは、Bの身体を揺すって起こし、目が覚めたBの顔面に包丁の刃先を突き付けた上、「声を出すな。お前の

キャッシュカードの暗証番号を言え。言わなければ殺す。」などと言った。

Bは、殺されると思い怖くなり、Aに正確な暗証番号を伝えた。

Aは、その番号を暗記した上、一階に戻り、玄関扉前に置いておいた財布が入ったカバンを持ち出し、B方を出た（なお、その間、Bはベッド上から動いていない）。

Aは、キャッシュカード内の現金を引き出そうと思い、コンビニエンスストアのある最寄り駅方向に向かって歩いていたが、途中、偶然路上でXと出会った。

Aは、Xから、「お前は人の借金を返さないで、こんな夜中に何してるんだ。早く金を返せ。乞食野郎。」などと言われた。

Aは、「乞食野郎」などと罵倒されたことに立腹し、今、ここでXを殺してしまえば、Xに対する合計三〇〇万円の借金の返済をしなくて済むと思い、咄嗟にB方から持ち出していた包丁でXを刺し殺そうと決意した。

そこで、Aは、右手に持った包丁でXの胸を突き刺し、Xを失血死により死亡させた。

その後、Aは、犯行の発覚を恐れたため、Bのキャッシュカードは使っていない（当時、銀行口座には、一〇万円が預金されていた。）。

なお、Xには二〇歳の長男がいる。

以上の事実を前提に、Aに成立する罪を論じなさい(なお、特別法の検討は不要である。)

討論会は三人一組で十組が出場し、各チーム一人の立論者が十分以内の論旨を発表し、他の二人が他の出場チームや傍聴者の質疑に対して五分間で応答する方法で行われた。

討論に先立ち、日本大学法学会会長杉野修平弁護士との挨拶があり、続いて進行の大内倫彦弁護士から発表の手順と審査基準(論旨内容六十点、発表態度十点、質疑応答内容・態度三十点)等の説明がなされたあと討論会が開始された。

討論終了後、審査員を代表して神田温子裁判官から審査結果が発表されたのに続き表彰式が行われ、法曹会、法学部校友会から優勝チームに法曹杯・法学部校友会杯、法曹会から優勝、準優勝、第三位の各チームに盾、並びに法学部校友会から副賞として図書カードが授与された。また、法学部校友会から出場者全員にメダル及び図書カード、優秀質問者には法学部校友会から図書カードがそれぞれ授与された。また、来場者全員に法学部並びに法学部校友会からそれぞれ記念品を贈呈した。

なお、法律討論会終了後、法学部三号館地下談話室において出場者・関係者全員による懇親会が開催された。

成績結果は、以下のとおりである。(括弧内は学科・学年)

優勝(第一組)

中根 太暉(法律・四年)・佐保 貴大(政治経済・四年)

管野 晶人(法律・三年)

準優勝(第五組)

姜 允淳(法律・三年)・馬場 普(法律・三年)

中村 圭佑(法律・三年)

第三位(第八組)

久留須加奈子(法律・三年)・玉木 諒(法律・三年)

鵜飼 祐樹(法律・三年)

参加賞(順不同)

中根 太暉(法律・四年)・佐保 貴大(政治経済・四年)

管野 晶人(法律・三年)・中津留聡啓(法律・三年)

大崎 利器(法律・三年)・渡邊 倫弘(政治経済・三年)

峯岸 舞(法律・二年)・大谷 健太(法律・三年)

奥山 直毅(法律・三年)・藤田 優(法律・三年)

金内 真美(経営法・三年)・高橋 和成(法律・三年)

姜 允淳(法律・三年)・馬場 普(法律・三年)

中村 圭佑(法律・三年)・岡部 茉莉(法律・三年)

辻野 沙織(法律・三年)・戸井田和大(法律・三年)
 塚澤 香葉(法律・三年)・芳賀 篤拓(法律・三年)
 水野 里美(法律・三年)・久留須加奈子(法律・三年)
 玉木 諒(法律・三年)・鵜飼 祐樹(法律・三年)
 大武ほなみ(法律・四年)・佐賀 優季(法律・四年)
 森口 真衣(法律・四年)・幸野 健人(公共政策・四年)
 合田 雄一(法律・四年)・増田 裕介(公共政策・四年)

優秀質問賞(五十音順)

鵜飼 祐樹(法律・三年)・上島 弘平(法律・三年)
 姜 允淳(法律・三年)・佐賀 優季(法律・四年)
 佐々木優弥(法律・三年)・佐保 貴大(政治経済・四年)
 玉木 諒(法律・三年)・藤田 優(法律・三年)
 松崎 大樹(法律・三年)・山口翔太郎(立教大学・四年)

平成二十四年度国家試験合格者

◆公認会計士試験 二名

古矢 恵美(平成二十一・経営法卒業)
 佐藤美香子(平成二十二・経営法卒業)
 山田 義晃(商学部会計学・三年)

◆弁理士試験 二名

小出 泰誠(平成二十三・経営法卒業)
 橋本 一輝(平成二十四・生産工学部マネジメント工卒業)

◆税理士試験 一名

田迎 治子(法学研究科博士前期課程・二年)

平成二十四年度日本大学法学部政経研究所
懸賞論文

日本大学法学部政経研究所は、社会科学全般に関連する研究等を目的とし、学生の社会に対する問題意識向上のため論文募集を行い、優れた論文に対し賞金(図書カード)を贈呈することとした。

結果は、いずれの賞も該当なしであった。

【募集概要】

テーマ

「日本政府の『成長戦略』についての課題」

「日本における持続可能な社会の実現へ向けての課題」

課題

「日本社会におけるガバナンスのあり方を問う」

※この中からテーマを一つ自由選択した。

※サブタイトルを付けることとした。

応募資格 日本大学法学部在学学生・大学院生

応募要領

○論文は日本語で作成され、未発表のものに限る。

○パソコン・ワープロで作成する場合は、A4

版用紙を使用し六〇〇〇字以上一〇〇〇〇字以内とする。手書きする場合は、市販のA4判

横書き用四〇〇字詰め原稿用紙を使用し、黒インクの万年筆又はボールペンを使用して記載すること。枚数は、同原稿用紙十五枚以上二十枚以内とする。(引用・参考文献等は、注に明記すること。)

○用紙には、氏名・学年・学科等その他予断を生じるような事項を記入しないようにする。論文とは別に氏名・学年・学科・電話番号を記載した書面を添付すること。

○論文の応募は一人一通とし、応募論文の返却は行わない。

○優れた論文は、本人の承諾を得たうえ、本学部ホームページ等に掲載することがある。

提出期限
平成二十四年十一月二十二日(木)【必着】
提出先
日本大学法学部研究事務課(三号館一階)

賞 金 優れた論文には、それぞれ賞金(図書カード)を授

与する。

最優秀賞 五万円

優秀賞 三万円

佳作 二万円

※いずれの賞も該当なしの場合がある。

論文審査

日本大学法学部政経研究所で審査を行い、最終決定は平成二十五年一月下旬に行う。ただし審査過程に関する問い合わせには応じられない。

受賞者発表

受賞者の発表は、本人への通知するほか、学部掲示板に掲載する。

主 催

日本大学法学部政経研究所

後 援

日本大学法学部校友会

平成二十四年度日本大学法学部政経塾講演 会(主催：日本大学法学部政経研究所)

(第一回)

一、日時 平成二十四年七月十九日(木)午後六時

一、場所 法学部(十一号館)二階会議室

一、テーマ及び講演者

「政治家の決断―消費税増税法案をめぐる―」

衆議院議員 石津 政雄

(第二回)

一、日時 平成二十四年十一月十九日(月)午前十時三十分

二、場所 法学部(十一号館)二階会議室

一、テーマ及び講演者

「地方分権・地方財政・地方教育改革について」

さいたま市長 清水 勇人

(第三回)

一、日時 平成二十四年十二月五日(水)午後三時

二、場所 法学部(本館)二階担当室

一、テーマ及び講演者

「政治家について」

元衆議院議員 小野 晋也